

SOS ニュース

「団塊の夫婦 歩み寄り」

～外食、友人より妻と～

夫婦の「すれ違いから」「歩み寄り」へ。団塊世代に大きな変化が起こっている。当研究所の調査で「最近配偶者との間で増えた時間」を尋ねたところ、60代男性では1位「食事」、2位「会話」、3位「相手の話を聞く」の順で続いた。

そもそも、40代～60代の男女に対する「生まれ変わっても（今の配偶者と）一緒になりたいか」という質問で、男性の半数は「なりたい」としたが、女性は残念ながら4人に1人が「出来れば別の人」と答えている。

そうした妻の態度を変えていくうえで、妻と過ごす時間を増やそうとする夫の側の努力には大きな意味がある。さらに重要なのはお金のかけ方である。先の調査で「外食」について「お金をかけても良い相手」を尋ねると、60代では夫婦が50%と「友人」（18%）を大きく上まった。こうした「夫婦重視」はすでに40～50代でも表れている。なぜこうなるのか、団塊世代は初めて「デートから恋愛婚へ」の流れが主流になった世代だからだ。続くポスト団塊・新人類・バブルの各世代も、どんどん華やかになるデートやグルメを満喫してきた。その世代が夫婦となり、今まさに歩み寄っている。こうして生まれた「新しい大人の2人」は東京や大阪、さらに地方都市の中心街で次々に開業している商業施設に押し掛けている。

・・・街がきれいになっている、まさに華の東京だ。その旺盛なニーズを支えているのは団塊であり、次に続く世代である。来世の事はともかく、夫婦円満にこの良き文化の中で楽しい時間を謳歌してほしい。年の瀬のイルミネーション、今年も後わずか。

※ 参考：H26.6.4 日本経済新聞より